

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
研究方法Ⅰ(看護研究概説)	看護学研究科 共通科目	1	2	看護実践における研究の意義と役割、看護研究に求められる倫理的姿勢について教授する。具体的には、量的・質的研究の基礎について概説するとともに、量的・質的研究における代表的な研究デザインの概要を解説する。また、看護実践から研究問題を明確化し、文献クリティーク、研究枠組みの構成、研究デザインの選定、倫理審査申請、データ収集・分析、成果公表を行う一連の研究プロセスについて解説する。	1. 量的・質的研究それぞれの特徴を説明できる。(知識・理解) 2. 研究計画を作成する一連のプロセスを説明できる。(知識・理解) 3. 研究方法に応じて求められる倫理的配慮事項、ならびに申請書に記載すべき事項を説明できる。(知識・理解) 4. データに応じた分析方法を説明できる。(知識・理解) 5. 研究論文の標準的な構成を説明できる。(知識・理解) 6. 研究成果を公開する方法とその特徴を説明できる。(知識・理解) 7. 自らの関心に即した複数の論文を読み、そのうち量的研究方法を用いた論文をクリティークできる。(技能) (関心・意欲・態度)	1. 量的・質的研究それぞれの代表的な研究デザインについて、その特徴を説明できる。(知識・理解) 2. 研究計画を作成する一連のプロセスをおおむね説明できる。(知識・理解) 3. 研究方法に応じて求められる倫理的配慮事項、ならびに申請書に記載すべき事項の概略を説明できる。(知識・理解) 4. データに応じた分析方法の基本事項を説明できる。(知識・理解) 5. 研究論文の標準的な構成を説明できる。(知識・理解) 6. 研究成果を公開する方法とその特徴をおおむね説明できる。(知識・理解) 7. 自らの関心に即した論文を読み、そのうち量的研究方法を用いた論文をクリティークできる。(技能) (関心・意欲・態度)
研究方法Ⅱ(量的・質的研究法)	看護学研究科 共通科目	1	2	看護研究の代表的手法である量的並びに質的研究法の特徴、限界、方法論の具体について習得する。量的研究では、疫学研究、実験・準実験研究における対象の抽出方法、コントロールの設定、バイアスを回避するための研究デザインの方法を学ぶ。さらに、データの記述・要約、関連性・因果関係の検討、予測・分類を目的とした一連の統計手法、および、統計処理ソフトを使用した分析の実際について習得する。質的研究では、Grounded Theory Approach、現象学のアプローチ、エスノグラフィーによるデータ収集方法、分析方法について習得し、クリティークを通して理解を深める。	1. 量的研究における対象の抽出方法が説明できる。(知識・理解) 2. 量的研究をデザインする方法が説明できる。(知識・理解) 3. 量的研究に必要な統計手法について説明できる。(知識・理解) 4. 統計処理ソフトを使用したデータ分析の方法が説明できる。(知識・理解) (技能) 5. Grounded Theory Approachを用いた研究の特徴について説明できる。(知識・理解) 6. 現象学のアプローチを用いた研究の特徴について説明できる。(知識・理解) 7. エスノグラフィーを用いた研究の特徴について説明できる。(知識・理解) 8. 自らの関心に即した複数の論文を読み、そのうち質的研究法を用いた論文をクリティークできる。(技能) (関心・意欲・態度)	1. 量的研究における対象の抽出方法が概要が説明できる。(知識・理解) 2. 量的研究をデザインする方法が概要が説明できる。(知識・理解) 3. 量的研究に必要な統計手法について概要が説明できる。(知識・理解) 4. 統計処理ソフトを使用したデータ分析の方法が概要が説明できる。(知識・理解) (技能) 5. Grounded Theory Approachを用いた研究の特徴について概要が説明できる。(知識・理解) 6. 現象学のアプローチを用いた研究の特徴について概要が説明できる。(知識・理解) 7. エスノグラフィーを用いた研究の特徴について概要が説明できる。(知識・理解) 8. 自らの関心に即した論文を読み、そのうち質的研究法を用いた論文一編をクリティークできる。(技能) (関心・意欲・態度)
看護倫理	看護学研究科 共通科目	1	2	医療の高度化が進展し、人々の健康ニーズが多様化する中で、看護専門職者として、人々の生命と尊厳を守り、権利を擁護・唱道する上で必備となる、看護倫理に関する概念や知識を教授する。また、高齢者の人工栄養の開始と中止など看護職者が倫理的ジレンマを感じる実践場面や組織における倫理的課題を取り上げ、ディスカッションを通じて、看護職者に求められる姿勢と対応、倫理的課題を解決する方略、ならびに研究倫理について理解の深化をはかる。(オムニバス方式/全15回)	1.看護倫理を考えるための原則および諸概念を説明できる。(知識・理解) 2.看護実践における倫理的課題を検討するための方法論を説明できる。(知識・理解) 3.生と死、虐待、差別など今日の医療・看護にかかわる倫理的課題を分析的に検討できる。(思考・判断・表現) 4.研究における倫理的配慮を理解し、研究計画に反映できる。(知識・理解)	1.看護倫理を考えるための基本的な原則および基本的な諸概念を説明できる。(知識・理解) 2.看護実践における倫理的課題を検討するための基本的な方法論を説明できる。(知識・理解) 3.生と死、虐待、差別など今日の医療・看護にかかわる倫理的課題を検討できる。(思考・判断・表現) 4.研究における倫理的配慮を理解し、研究計画に反映する必要性が理解できる。(知識・理解)
フィジカルアセスメント	看護学研究科 共通科目	1	2	健康問題をもつ対象に適切な看護を提供するために、健康状態の正常と逸脱を査定し、臨床看護判断を行うための知識・技術について理解する。生活歴や病歴の聴取を含め、対象から得られた主観的情報と系統的フィジカルイグザミネーションで得られた客観的情報を統合し、対象の健康状態を査定する技術を修得する。対象のライフステージおよび健康レベルにおける問題や課題を取り上げながら、病態の予測を可能にするフィジカルアセスメントの実践能力および対象に必要な看護ケアについて考察する。	1. 高度な臨床判断を行うために必要なフィジカルアセスメントについて説明できる。(知識・理解) 2. 高度な臨床判断を行うための系統的なフィジカルアセスメント技術を習得できる。(技能) 3. 臨床現場における複雑な事例を想定し、フィジカルアセスメントを展開することができる。(思考・判断・表現)	1. 基本的な臨床判断を行うために必要なフィジカルアセスメントについて説明できる。(知識・理解) 2. 基本的な臨床判断を行うためのフィジカルアセスメント技術を習得できる。(技能) 3. 臨床現場における一般的な事例を想定し、基本的なフィジカルアセスメントを展開することができる。(思考・判断・表現)
対人援助論	看護学研究科 共通科目	1	2	対人援助の基盤となる理論・モデルについて、最新の知見をもとに理解を深める。また、看護職の対人関係構築、コミュニケーション、保健指導などの実践例を検討することによって、医療現場における看護ケアや健康増進支援における対人援助技術の応用・課題について考察する。	1. 対人援助の基盤となる理論およびモデルについて具体的に説明できる。(知識・理解) 2. 看護実践の現場における対人援助技術について具体的に説明できる。(知識・理解) 3. 対人援助技術および知識の看護実践・看護研究・看護教育への応用と課題について具体的に説明できる。(技能)	1. 対人援助の基盤となる理論およびモデルについて基本的な事項を説明できる。(知識・理解) 2. 看護実践の現場における対人援助技術について基本的な事項を説明できる。(知識・理解) 3. 対人援助技術および知識の看護実践・看護研究・看護教育への応用と課題について基本的な事項を説明できる。(技能)
看護教育論	看護学研究科 共通科目	1	2	系統的な教育活動を展開するために必要な知識と技術の修得を目指す。教育学の基本的原理をふまえたうえで、看護教育の歴史、制度、対象、方法等の特性を概説するとともに、教育実践の理論と展開方法を教授する。加えて、授業設計、授業分析、授業評価の方法を解説し、これらを基盤に、看護基礎教育、看護技術教育、ならびに大学院教育、高度実践看護教育、卒後教育の現状と課題を、キャリア発達の観点から検討する。(オムニバス方式/全15回)	1. わが国の看護教育の歴史的変遷と法的基盤を説明し、課題を述べることができる。(思考・判断・表現) 2. 看護教育における教授・学習過程と学習者の特徴を述べることができる。(思考・判断・表現) 3. 授業設計を一連の流れとしてとらえ、各ステップの概要と留意点を説明することができる。(知識・理解) 4. 学習理論を用いて教授・学習過程を活性化するための方略を提案することができる。(思考・判断・表現) 5. 授業評価のあり方を説明し、課題を考察することができる。(思考・判断・表現) 6. 看護教育を専門職の生涯教育としてとらえ、キャリア発達の支援のあり方を考察することができる。(思考・判断・表現)	1. わが国の看護教育の歴史的変遷と法的基盤を説明し、主要な課題を述べることができる。(思考・判断・表現) 2. 看護教育における教授・学習過程と学習者の主要な特徴をとらえることができる。(思考・判断・表現) 3. 授業設計を一連の流れとしてとらえ、各ステップの概要と留意点を説明することができる。(知識・理解) 4. 学習理論を用いて教授・学習過程を活性化するための具体策を提案することができる。(思考・判断・表現) 5. 授業評価のあり方を説明し、課題を考察することができる。 6. 看護教育を専門職の生涯教育としてとらえ、キャリア発達の支援のあり方を考察することができる。(思考・判断・表現)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
保健医療福祉政策論	看護学研究科 共通科目	1	2	少子高齢化と人口減少に伴うわが国の保健医療福祉政策の現状を理解し、今後の課題と方策を明確化するため、わが国及び諸外国の社会保障制度の歴史と動向を概説する。また、ニーズを踏まえた保健医療福祉政策・制度の策定及び決定における政策過程について概説するとともに、看護専門職者か施策化・政策過程に関わった実例（国家レベル、地方自治体レベル、職能団体レベル）を取り上げ、グループディスカッションを通じて、保健医療福祉政策過程と社会資源創出に、看護専門職者が関与する意義と役割について考察する。さらに、学生の専門分野における施策の取り組み経緯を学修し、施策と実践の関係を整理し、施策及び実践における課題を検討する。それらを踏まえて、政策提言及び実践への提言をまとめる。（オムニバス方式/全15回）	1. わが国の社会保障の動向を理解し、保健医療福祉政策の課題と展望について検討し、考察することができる。（知識・技能）（判断） 2. 政策過程のプロセスを説明することができる。（知識・技能）（判断） 3. 政策過程を分析し、その結果を考察し、説明することができる。（知識・技能）（判断） 4. 保健医療福祉政策と実践との関係について、看護専門職者が関与する意義及び役割を考察し、説明することができる。（思考・判断・態度） 5. 専門分野における施策と実践における課題を述べ、政策提言及び実践への提言を具体的にまとめることができる。（知識・技能）（思考・関心・判断・態度）	1. わが国の社会保障の動向を理解し、保健医療福祉政策の課題と展望について検討し、考察することができる。（知識・技能）（判断） 2. 政策過程のプロセスを説明することができる。（知識・技能）（判断） 3. 政策過程を分析し、その結果を考察することができる。（知識・技能）（判断） 4. 保健医療福祉政策と実践との関係について、看護専門職者が関与する意義及び役割を説明することができる。（思考・判断・態度）
多職種連携	看護学研究科 共通科目	1	2	保健医療福祉分野における多職種連携への関心、必要性は近年、急速に高まっている。このように多職種連携が必要とされるようになった歴史的経緯、国内外での動向、並びに多職種連携や協働に関する概念、理論を概説するとともに、多職種連携・多機関連携を推進するための展開方法を教授する。加えて、保健医療施設や地域における多職種連携の実践事例から、健康レベルや健康問題、実践の場の違いによる連携・協働の特徴を把握するとともに、連携の困難さを乗り越える方略を検討する。（オムニバス方式/全15回）	1. わが国の保健医療福祉分野における多職種連携の取り組みが活性化に至った歴史的経緯を、国内外の動向を踏まえて説明できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（判断） 2. 多職種連携および協働に関する概念、理論を説明できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（技能） 3. 多職種連携の展開方法の要点が説明できる。（思考・判断・表現）（技能） 4. 母子、精神障がい者、高齢者等を取り巻く医療情勢の変化や対応について多職種との連携・協働の重要性の理解を深めることができる。（思考・判断・表現）（判断）（技能）	1. わが国の保健医療福祉分野における多職種連携の取り組みが活性化に至った歴史的経緯を、国内外の動向を踏まえて大まかに説明できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（判断） 2. 多職種連携および協働に関する概念、理論を大まかに説明できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（技能） 3. 多職種連携の展開方法の要点が大まかに説明できる。（思考・判断・表現）（技能） 4. 母子、精神障がい者、高齢者等を取り巻く医療情勢の変化や対応について多職種との連携・協働の重要性の理解を深める。（思考・判断・表現）（判断）（技能）
療養生活支援看護学総論	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援看護学領域	1	2	病状の回復・安定と療養生活の質向上を支援する看護実践上の課題を見出すために必要な知識の獲得を目的に、生涯発達に関する理論と、小児・成人・老年の各期における我が国の疾病構造や健康課題に関する統計データ、医療安全の現状について習得する。加えて、リスクマネジメントの実践事例、あるいは各発達段階に特徴的な健康課題に対応した実践事例を選び、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、療養の場の管理運営や環境調整及び療養生活をおくる人々への個別支援とチームアプローチに関する理解を深化させる。（オムニバス方式/全15回）	1. 国際比較、過去から現在への推移、今後の推計から、各発達段階における疾病構造や健康課題の特徴を系統立てて説明できる。（知識・理解） 2. 生涯発達に関する主要な理論、ならびに各発達段階に特有の理論や概念を具体的な事象と関連づけながら説明できる。（知識・理解） 3. 各発達段階において求められる療養生活支援の特徴について具体的な事象をもとに説明できる。（思考・判断・表現） 4. 個別アプローチとチームアプローチの双方向から、状況にみあった療養生活支援の枠組みを構築できる。（思考・判断・表現） 5. 療養生活環境やシステムに対するマネジメントについて、状況を踏まえた具体的な方法を説明できる。（思考・判断・表現） 6. 自身の看護領域の特徴に関連付けながら本科目の内容を習得し、自身の研究課題について焦点化し、深化させることができる（関心・意欲・態度）	1. 国際比較、過去から現在への推移、今後の推計から、各発達段階における疾病構造や健康課題の特徴を説明できる。（知識・理解） 2. 生涯発達に関する主要な理論、ならびに各発達段階に特有の理論や概念を説明できる。（知識・理解） 3. 各発達段階において求められる療養生活支援の特徴について説明できる。（思考・判断・表現） 4. 個別アプローチとチームアプローチの双方向から、療養生活支援の枠組みを構築できる。（思考・判断・表現） 5. 療養生活環境やシステムに対するマネジメントの方法を説明できる。（思考・判断・表現） 6. 自身の看護領域の特徴に関連付けながら本科目の内容を習得し、自身の研究課題について焦点化できる（関心・意欲・態度）
看護管理学特論	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援看護学領域	1	2	看護管理の基盤となる概念、及び看護サービス管理について主に組織管理、人的資源管理、安全管理の視点から教授する。具体的には、看護管理の歴史、看護行政の動向と課題、看護サービスの特徴と質の評価（安全管理・人事管理・情報管理等）、看護管理の構成要素とシステム、看護組織の特徴と組織経営、人的資源管理（ストレス管理、ワークモチベーション、リーダーシップ）、組織文化の醸成など今日的なテーマについて事例検討も踏まえながら掘り下げる。全体をとおして、理論・モデルの実践への応用を検討するとともに、今後の探究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに応じて、講義形式およびグループディスカッション形式により展開する。	1.看護管理の歴史を踏まえて、制度や政策の動向について説明できる。（知識・理解）2.看護サービスの特徴と質の評価（安全管理・人事管理・情報管理等）における課題と解決策について議論することができる。（思考・判断・表現）3.看護組織の特徴と組織経営、人的資源管理（ストレス管理、ワークモチベーション、リーダーシップ）における課題と解決策について議論することができる。（思考・判断・表現）4.組織文化の醸成について議論することができる。（思考・判断・表現）	1.看護管理に関わりのある制度や政策の動向について説明できる。（知識・理解）2.看護サービスの特徴と質の評価（安全管理・人事管理・情報管理等）について議論することができる。（思考・判断・表現）3.看護組織の特徴と組織経営、人的資源管理（ストレス管理、ワークモチベーション、リーダーシップ）について議論することができる（思考・判断・表現）。4.組織文化の醸成について議論することができる。（思考・判断・表現）
小児看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援看護学領域	1	2	小児看護学の基盤となる子どもおよび家族の理解、子どもの最善の利益に向けた支援に関する理論・概念・モデル、および方法論について理解を深め、子どもと家族、および、それらを取り巻く環境に伴う状況にかんする現状と課題について、実践的な事象をもとにした理解と支援方法について探求する。さらに、子どもと家族の置かれた今日的課題に対する、理論・概念・モデルの援用について理解し、実践的な支援の方法と課題の明確化を図る。各回のテーマに応じて、講義形式、プレゼン形式、グループディスカッション形式により、主体的な学びを展開することを目指す。	1. 子どもと家族に関する主要な理論および概念について理解し、小児看護学との関係を説明できる。（知識・理解） 2. 子どもと家族、および、それらを取り巻く環境の現状と課題を、生涯発達、生活、健康の観点から説明し、統合することができる。（思考・判断・表現） 3. 小児期に特有な健康課題について実践的および学術的動向から理解し、発達・健康・生活の観点から効果的な支援方法について提示できる。（思考・判断・表現）（技能） 4. 子どもと家族の健康に関連した諸課題を国内外の事例および文献をもとに検討し、支援の方法を説明できる。（関心・意欲・態度） 5. 小児看護学における自身の関心領域を明確にし、研究課題を言語化できる（関心・意欲・態度）	1. 子どもと家族に関する主要な理論および概念について説明できる。（知識・理解） 2. 子どもと家族、および、それらを取り巻く環境の現状と課題を、生涯発達、生活、健康の観点から把握し説明できる。（思考・判断・表現） 3. 小児期に特有な健康課題について実践的および学術的動向から理解し、発達・健康・生活の観点から支援方法について説明できる。（思考・判断・表現）（技能） 4. 子どもと家族の健康に関連した諸課題を国内外の事例および文献をもとに検討し、支援の方法を説明できる。（関心・意欲・態度） 5. 小児看護学における自身の関心領域を明確にし、研究課題につながる項目を挙げることができる（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
成人看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援看護学領域	1	2	成人看護学の基盤となる概念および理論について、最新の知見をもとに教授する。成人の健康課題である慢性疾患およびがんをもつ対象へのセルフケアや心理的支援、さらには周手術期やクリティカルケア場面におかれた対象の健康状態改善のための看護師の役割と課題について教授する。	1. 成人看護学で用いる概念および理論について説明できる。（知識・理解） 2. 慢性疾患およびがんをもつ対象へのセルフケアや心理的支援における看護の特徴と課題について説明できる。（知識・理解） 3. 理論や看護実践モデルを活用し、周手術期やクリティカルケア場面におかれた対象の健康状態改善のための看護師の役割と課題について説明できる。（知識・理解） 4. 成人看護学の研究動向と課題について理解し、自分の言葉で説明できる。（知識・理解） 5. 講義による学習や討議を通して興味・関心のある領域を明確にし、研究課題を説明できる。（思考・判断・表現）	1. 成人看護学で用いる主な概念および理論について理解できる。（知識・理解） 2. 慢性疾患およびがんをもつ対象へのセルフケアや心理的支援における看護の特徴と課題について、基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 3. 理論や看護実践モデルを活用し、周手術期やクリティカルケア場面におかれた対象の健康状態改善のための看護師の役割と課題について、概ね説明できる。（知識・理解） 4. 成人看護学の研究動向と課題について、概ね説明できる。（知識・理解） 5. 講義による学習や討議を通して興味・関心のある領域を明確化できる。（知識・理解）
老年看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援看護学領域	1	2	老年看護学の基盤となる概念、理論、及び超高齢社会ならびに多死社会に特有の健康課題と主要な実践モデルについて、最新の知見をもとに教授する。また、認知症ケア、終末期ケア、家族介護、介護サービス利用支援など老年期に特徴的な療養生活支援の実践例を通して、理論・モデルの実践への応用を検討するとともに、今後の探究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに応じて、講義形式およびグループディスカッション形式により展開する。	1. 高齢者の理解に不可欠な、老化、生涯発達に関する理論とその特徴を説明できる。（知識・理解） 2. 高齢者の身体・心理・社会面の評価尺度を特徴を説明し、状況に併せて適切に選択できる。（知識・理解）（技能） 3. 高齢者医療制度、保健福祉政策の整備過程を理解した上で、現状の課題を説明できる。（知識・理解） 4. 高齢者・家族に特徴的な健康問題について、実践面の課題、ならびに研究動向について説明できる。（知識・理解）（関心・意欲・態度）	1. 高齢者の理解に不可欠な、老化、生涯発達に関する理論とその基本事項を説明できる。（知識・理解） 2. 高齢者の身体・心理・社会面の評価尺度を基本事項を説明できる。（知識・理解） 3. 高齢者医療制度、保健福祉政策の整備過程を説明できる。（知識・理解） 4. 高齢者に特徴的な健康問題について、実践面の課題を説明できる。（知識・理解）（関心・意欲・態度）
療養生活支援看護学演習	看護学研究科 専門教育科目 療養生活支援看護学領域	1	4	疾病や障がいをもつ小児・成人・老年期の各ステージにある人々と家族の療養生活の質ならびに療養環境の安全性の向上を支援する看護実践上の課題について、学生自身の問題意識や経験にもとづき、国内外の文献検討及びフィールドワークを行い、その成果発表とディスカッションを通じて研究疑問を洗練する。さらに、研究疑問に適した研究デザインを選定し、計画書を作成するまでの一連の過程を通して、研究計画立案のための基礎的能力を発展させる。なお、本科目の運営については、問題意識の掘り下げと問題意識の包括的検討の双方向から探究できるよう、研究計画作成のプロセスにおける「文献検討」「フィールドワークの計画と実施」「研究計画立案」は、学生の研究疑問に直結した分野で指導を行い、「研究テーマの発表と討論」「文献検討結果の発表と討論」「フィールドワーク成果の発表と討論」「研究計画の発表と討論」は分野横断的に指導を行う。（共同/全30回）	1. 学生自身の問題意識に基づき、国内外の文献検索ができる。（知識・理解）（技能） 2. 和文および英文の研究論文をクリティークできる。（知識・理解）（技能） 3. 自身の問題意識に基づき、フィールドワークを行い、そこで修得した成果を発表できる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度） 4. 文献検討とフィールドワークから自身の研究テーマを洗練し、概ね妥当な研究計画を立案することができる。（技能）（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	1. 学生自身の問題意識に基づき、国内を中心とした文献検索ができる。（知識・理解）（技能） 2. 和文を中心に、研究論文をクリティークすることができる。（知識・理解）（技能） 3. 自身の問題意識に基づき、フィールドワークを行い、そこで修得した成果を発表できる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度） 4. 文献検討とフィールドワークから自身の研究テーマを一定程度洗練し、研究計画を立案できる。（技能）（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）
健康生活支援看護学総論	看護学研究科 専門教育科目 健康生活支援看護学領域	1	2	健康増進と生活の質の向上を支援する看護実践上の課題を見出すための知識を身につけることを目的とし、ヘルスプロモーションの概念と健康課題の社会診断・疫学診断の方法について概説する。また、現代社会における健康生活支援看護実践上の重要な課題として、家族支援、精神障がい者支援、生活習慣病予防対策、在宅ケアの実践例並びにこれらに関連する制度・政策を取り上げ、グループディスカッションを通じて、様々な健康レベルにある個人・家族のセルフケア能力を向上する支援、生活を支える環境づくり、及び多職種多機関連携についての理解を深化する。（オムニバス方式/全15回）	1. 社会診断および疫学診断に基づき、特定地域（集団）の健康課題解決を行う看護実践の方法について説明できる。（知識・理解） 2. 健康生活支援看護実践上の現代的な重要課題について、その社会的背景、関連する制度・政策を説明できる。（判断・表現） 3. 様々な健康レベルにある個人・家族に求められる、健康増進と生活の質向上に向けた看護実践と多職種多機関連携の特徴について説明できる。（判断・技能） 4. 個人・家族のセルフケア能力を向上する支援と、生活を支える環境づくりの双方向から、健康生活支援の枠組みを構築できる。（技能）	1. 社会診断および疫学診断に基づき、特定地域（集団）の健康課題解決を行う看護実践の方法の要点を概ね説明できる。（知識・理解） 2. 健康生活支援看護実践上の現代的な重要課題について、その社会的背景、関連する主な制度・政策を概ね説明できる。（判断・表現） 3. 様々な健康レベルにある個人・家族に求められる、健康増進と生活の質向上に向けた看護実践と多職種多機関連携の特徴について概ね説明できる。（判断・技能） 4. 個人・家族のセルフケア能力を向上する支援と、生活を支える環境づくりの双方向から、健康生活支援の枠組みを理解できる。（技能）
母性看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 健康生活支援看護学領域	1	2	母性看護学の基盤となる概念、理論、及び思春期保健、リプロダクティブ・ヘルスにおける重要な実践モデルについて、最新の知見にもとづき教授する。また、女性のライフサイクルに応じた健康課題と支援の実践例を通して、理論・モデルの実践への応用について理解を深めるとともに、今後の検討課題を検証する。教授方法は、各回のテーマに応じて、講義形式およびグループディスカッション形式により展開する。（オムニバス方式/全15回）	1. 母性看護学の基盤となる概念や理論（ウィメンズヘルスケア、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、セクシュアリティ、アタッチメント、危機理論、エンパワーメント、セルフケア、ソーシャルサポートなど）が活用できる（知識・理解） 2. 女性のライフサイクル各期の健康課題と影響を与える要因について事例をもとに説明できる（判断・表現） 3. リプロダクティブ・ヘルスにおける看護者の役割と課題が考察できる（関心・技能）	1. 母性看護学の基盤となる概念や理論（ウィメンズヘルスケア、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、セクシュアリティ、アタッチメント、危機理論、エンパワーメント、セルフケア、ソーシャルサポートなど）が理解できる（知識・理解） 2. 女性のライフサイクル各期の健康課題と影響を与える要因が説明できる（判断・表現） 3. リプロダクティブ・ヘルスにおける看護者の役割と課題について議論を通して理解できる（関心・技能）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
精神看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 健康生活支援看護学領域	1	2	(概要) 精神看護学の基盤となる概念、理論、及び、メンタルヘルスにおける重要な実践モデルについて、最新の知見にもとづき教授する。また、地域で生活する精神障害者における健康課題と支援の実践例を通して、理論・モデルの実践への応用について理解を深めるとともに、今後の検討課題を検証する。教授方法は、各回のテーマに応じて、講義形式およびグループディスカッション形式により展開する。	1. あらゆる人の精神的な発達に関する理論とその特徴について説明できるとともに、精神の発達における現状の課題について考察できる。(知識・理解) 2. ケアモデルを理解した上で、精神障がい者の身体・心理・社会面の評価尺度を適切に活用できる。(知識・理解)(判断)(技能) 3. 精神看護学の基盤となる概念、理論、実践モデルについて最新の知見に基づき理解を深めることができる。(知識・理解)(関心・意欲・態度) 4. 精神看護学の基盤となる概念、理論、実践モデルの実践や研究における応用と課題について考察することができる。(技能)(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)	1. あらゆる人の精神的な発達に関する理論とその特徴について説明できるとともに、精神の発達における現状の課題について議論することができる。(知識・理解) 2. ケアモデルを理解した上で、精神障がい者の身体・心理・社会面の評価尺度を適切に活用することを理解できる。(知識・理解)(判断)(技能) 3. 精神看護学の基盤となる概念、理論、実践モデルについて最新の知見に基づき議論を通じて理解することができる。(知識・理解)(関心・意欲・態度) 4. 精神看護学の基盤となる概念、理論、実践モデルの実践や研究における応用と課題について、議論を通じて理解することができる。(技能)(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)
地域看護学特論	看護学研究科 専門教育科目 健康生活支援看護学領域	1	2	地域看護学並びに地域看護活動の基盤となる主要な概念、理論、モデルについて、地域看護学のパラダイムに基づき、地域で生活する個人・家族・集団に対する看護実践、並びに地域(コミュニティ)全体を対象とする看護実践への適用の2つの観点から取り上げ、最新の知見にもとづき教授する。また、地域看護学の実践分野である公衆衛生看護活動および在宅ケア・看護活動の実践例を通して、理論・モデルの実践への応用について理解を深めるとともに、今後の検討課題を明確化する。教授方法は、各回のテーマに応じて、講義形式およびグループディスカッション形式により展開する。(オムニバス方式/全15回)	1. 地域看護学ならびに地域看護実践における国内外の動向を理解し、その課題と展望について考察することができる。(知識・理解) 2. 地域看護学における主要な概念や理論、モデルについて最新の知見に基づき説明することができる。(知識・理解) 3. 地域看護学における主要な概念や理論、モデルについて地域看護実践や研究における応用と課題について適切に考察することができる。(技術)(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)	1. 地域看護学ならびに地域看護実践における国内外の動向について適切に説明することができる。(知識・理解) 2. 地域看護学における主要な概念や理論、モデルについて最新の知見に基づき概ね説明することができる。(知識・理解) 3. 地域看護学における主要な概念や理論、モデルについて地域看護実践や研究における応用と課題について概ね適切に考察することができる。(技術)(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)
健康生活支援看護学演習	看護学研究科 専門教育科目 健康生活支援看護学領域	1	4	個人・家族のセルフケア能力向上に働きかけるとともに、住民や多職種多機関と連携して環境づくりを行う、ヘルスポモーションの視点から、健康増進と生活の質の向上を支援する看護実践上の課題について、学生自身の問題意識にもとづき、国内外の文献検討やフィールドワークを行い、その成果発表とディスカッションを通じて研究疑問を洗練する。さらに、研究疑問に適した研究デザインを選定し、研究計画を立案するための基礎的能力を醸成させる。なお、本科目の運営については、問題意識の掘り下げと問題意識の包括的検討の双方向から探究できるよう、研究計画作成のプロセスにおける「文献検討」「フィールドワークの計画と実施」「研究計画立案」は、学生の研究疑問に直結した分野で指導を行い、「研究テーマの発表と討論」「文献検討結果の発表と討論」「フィールドワーク成果の発表と討論」「研究計画の発表と討論」は、分野横断的に指導を行う。(共同/全30回)	1. 学生自身の問題意識に基づき、国内外の文献検索ができる。(知識・理解)(技能) 2. 和文および英文の研究論文をクリティークできる。(知識・理解)(技能) 3. 自身の問題意識に基づき、フィールドワークを行い、そこで修得した成果を発表できる。(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度) 4. 文献検討とフィールドワークから自身の研究テーマを洗練し、概ね妥当な研究計画を立案することができる。(技能)(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)	1. 学生自身の問題意識に基づき、国内を中心とした文献検索ができる。(知識・理解)(技能) 2. 和文を中心に、研究論文をクリティークすることができる。(知識・理解)(技能) 3. 自身の問題意識に基づき、フィールドワークを行い、そこで修得した成果を発表できる。(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度) 4. 文献検討とフィールドワークから自身の研究テーマを一定程度洗練し、研究計画を立案できる。(技能)(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)
特別研究	看護学研究科 特別研究	2	8	各領域の演習で洗練した研究疑問に基づき、修士論文完成までの実地的な指導を行う。具体的には、研究課題の明確化、研究計画立案、研究倫理審査、データ収集、分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションまでが円滑に行えるように指導し、看護研究を行う基礎的能力を育成する。	1. 文献検討により研究課題を明確化し、倫理的配慮を行いながら、適切な研究計画を立案できる。(知識・理解)(技能) 2. 研究計画に応じた適切な方法により、データを収集できる。(知識・理解)(技能) 3. データの種類に応じた適切な方法により、データを分析できる。(知識・理解)(技能) 4. データに基づき深く考察を行い、看護実践への示唆を得ることができる。(関心・意欲・態度) 5. 要領に則り修士論文を執筆し、完成させることができる。(関心・意欲・態度)(思考・判断・表現) 6. 研究成果を発表し、研究課題の今後の発展につながる建設的なディスカッションを行うことができる。(思考・判断・表現)	1. 文献検討により研究課題を明確化し、倫理的配慮を行いながら、研究計画を立案できる。(知識・理解)(技能) 2. 研究計画に応じた方法により、データを収集できる。(知識・理解)(技能) 3. データの種類に応じた方法により、データを分析できる。(知識・理解)(技能) 4. データに基づき考察を行い、看護実践への示唆を得ることができる。(関心・意欲・態度) 5. 要領に則り修士論文を執筆し、完成させることができる。(関心・意欲・態度)(思考・判断・表現) 6. 研究成果を発表し、ディスカッションを行うことができる。(思考・判断・表現)